

薩摩川内市民憲章 (平成17年1月1日 制定)

美しい自然と、古い歴史を誇りとするわたしたち薩摩川内市民は、
やさしくすれば、心はかよう。
はなしをすれば、だれでもわかる。
考えさえすれば、みちはひらける。
やりさえすれば、かならずできる。
という信条をもって
明るく豊かなまちをつくります。

薩摩川内市民が、こぞって明るく豊かなまちづくりを目指し、市民一人ひとりの生活指標として愛していただきたいとの願いをこめていきます。

薩摩川内市の概要

薩摩川内市は、薩摩半島の北西部に位置し、南は県都鹿児島市と川内市、西はき串市、東は野市、北は阿久根市に隣接する本土区域と、上甑島、中甑島、下甑島で構成される甑島区域で構成されています。

東シナ海に面した変化に富む白砂青松の海岸線、市街部を悠々と流れる一級河川「川内川」、蘭牟田池をはじめとするみどり豊かな山々や湖、地形の変化の美しい甑島、各地の温泉など、多種多様な自然環境を有しています。

本市が有するこれらの多彩で美しい自然環境は、川内川流域県立自然公園、蘭牟田池県立自然公園、甑島県立自然公園に指定され、人々に親しまれています。

- 総面積：683.50 k m² (本土 564.75 k m² / 甑島 118.75 k m²)
- 総人口：102,370人 (平成17年国勢調査)
- 世帯数：41,387世帯 (")

本市は、将来の発展に向けて、市民と行政が**市**体となって地域特性を活かしながら新しい時代にふさわしい活力と魅力あるまちづくりの指針となる『第1次薩摩川内市総合計画』を平成18年3月に策定しました。

『第1次薩摩川内市総合計画』の体系

基本理念 **地域力が奏でる都市力の創出**

- 1 地域力を育み新しい地創出を目指す
h層甑 瑋懐ノ襪る

市章，市木，市花，市鳥，市魚

市章 （平成17年1月1日制定）

薩摩川内市の頭文字のSと川内川の形状を組み合わせたデザインです。

緑は田園と山々の自然のやすらぎを，青は海，川，湖など水のうるおいを表わしています。

広い面積を有する薩摩川内市が一体となって地域力・都市力を発揮し，明るい未来に向けて力強く躍動する姿を表現したものです。



市木 （平成17年2月13日制定）

クロガネモチ（もちのき科）

『高く伸びる木・常緑の葉は，市の発展を象徴』

本市の山野に分布する常緑樹で，樹姿は雄大，樹性は強健です。通称「実つぎ」と呼ばれ，11月から3月まで枝いっぱいに赤い実をつけ，美観をそえます。

また，この木を群植したときは，この実を求めて多くの鳥類が集まります。

粘り強くたくましく成長する姿は，市勢の発展を，集まる小鳥のイメージは，市民の融和を表現しています。



市花 （平成17年2月13日制定）

カノコユリ

『初夏に咲くピンクの花は，市民の優雅さと情熱を，そのたくましい生命力は，市民の活力を象徴』

カノコユリの原産地は日本と台湾で，特に，本市に存する甌島は，「鹿の子ゆりのふるさと」として，道路端や山間部のいたる所に自生しています。

カノコユリの名前の由来は，桃紅地に濃厚な斑点の対比を，「鹿の子しぼり」にたとえて，江戸時代の愛好家が名付けたものと伝えられています。

ヨーロッパや欧米でも，その美しさゆえに人々を魅了し，現在も愛され続けています。



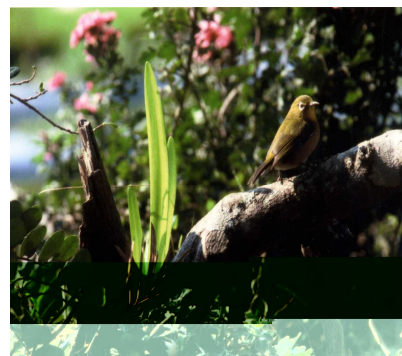
市鳥 (平成17年2月13日制定)

メジロ (スズメ目メジロ科)

『甲高く活気あふれる鳴き声は、市民の力強さと明朗性を象徴』

本市では、「ハナシ」と呼ばれていますが、雀より小さい日本特産の樹上性の保護鳥です。昔から、高音で響くさえずりが好まれ、姿も極めて愛らしく、飼鳥として知られています。

樹木の小昆虫類をはじめ、アブラムシ、貝殻虫、蛾類を食べ、森林の害虫駆除の上からも極めて有益な鳥です。



市魚(川) (平成17年2月13日制定)

アユ

『激流ともいえる流れの早い流心に定位する姿は、何事にも負けない不屈の精神を、また、集団で行動する姿は、市民の協調融和の精神を象徴』

背側は青みがかったオリーブ色、腹側は銀白色で、長く立派な背びれが印象的な魚です。

中国や朝鮮半島の一部にも生息していますが、その量は少なく、日本固有といってもいいようです。

アユは淡水魚というイメージがありますが、実際は冬に生まれ、海で越冬した後、川を上ってきて、秋まで生きる1年魚です。

川に入ったアユは、川底の石につく珪藻類を食べ、生息しています。



市魚(海) (平成17年2月13日制定)

キビナゴ

『小さな体ですばやく回遊する姿は、市民の力強さと明朗性を、美しい姿は、市民の豊かな心を象徴』

体側に美しい銀色と青の帯を持つ小さな魚です。産卵期である春先に多く取れたことから、昔は、肥料やカツオ・タイの一本釣り用の餌として利用されていました。しかし、DHAやEPAなどの不飽和脂肪酸を多く含むことから、健康食品としての人気が高く、特に産地である鹿児島県では人気が高いです。



教育文化行政の沿革

平成16年10月12日	川内市，樋脇町，入来町，東郷町，祁答院町，里村，上甌村，下甌村及び鹿島村が合併し，薩摩川内市を施行。
平成16年10月12日	任期を市長選挙後の議会の最終日とする5名の教育委員を任命。 第1回教育委員会 濱田委員長，石塚教育長を選任。教育委員会規則の議決・制定。
平成16年11月19日	濱田，柳田，江崎，三本，向原各氏を教育委員として任命。
平成16年11月20日	第3回教育委員会 濱田委員長，向原教育長を選任。
平成16年11月8日	『新大橋』が国の登録建造物に指定される。
平成17年2月5日	薩摩川内市誕生記念『市民合唱祭』を開催。
平成17年4月1日	川内学校給食センターの調理・配送業務を民間委託。
平成17年4月19日	『甌島の植物繊維衣料』が県の有形民俗文化財に指定される。
平成17年11月21日	第16回教育委員会 濱田委員長の任期満了に伴い，森園新委員長を選任。
平成18年3月20日	高来小学校屋内運動場完成。
平成18年3月31日	『薩摩川内市小中一貫教育特区』が内閣府から構造改革特別区域計画の認定を受ける。
平成18年4月1日	8教育支所の廃止に伴い，教育生涯学習課に改編。グループ制（教育グループ）を導入。
平成18年4月21日	『川内大綱引』が県の無形民俗文化財に指定される。
平成18年9月16日	第60回県民体育大会川薩大会開催（荒天のため17日の日程を中止）
平成19年4月1日	生涯学習の総合調整に係る事務を市長事務局（企画政策部）に移管し，生涯学習課を社会教育課と，教育生涯学習課を教育課と改称。全課所にグループ制を導入。
平成19年4月1日	東郷学校給食センターを川内学校給食センターに，祁答院地域の5学校給食調理場を入来学校給食センターに，上甌学校給食センターを里学校給食センターに，鹿島学校給食センターを下甌学校給食センターにそれぞれ機能統合し，同時に調理・配送業務を民間委託。
平成19年8月20日	『NHK夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会』が開催される。
平成20年3月13日	『東郷文弥節人形浄瑠璃』が国の重要無形民俗文化財に指定される。
平成20年3月29日	八幡小学校プール完成。
平成20年4月1日	浦内小学校閉校。106年の歴史を閉じる。（閉校式3月21日）